

## 博多湾の攻防

福岡市は九州最大の人口（150万人）を有する大都市である。地理的状況から朝鮮半島、中国とも近く、昔から外国との交流・交通の要所でもあった。それ故に他国からの侵略も数々経験している。

869年には新羅海賊が博多湾に侵入。1019年には刀伊の入寇（満州民族と見られる海賊船）。そして最大の脅威は人類史上最大のモンゴル帝国の来襲である。宋を滅ぼしユーラシア大陸のほとんどを支配した中で、高麗も屈服させたモンゴル帝国のクビライ（チンギス・カンの功臣の一人）が日本の服属を求めた。しかし鎌倉幕府はこれを拒否。1274年にモンゴル人・漢人・女真人・高麗人



など4万人の軍を率いて博多湾に現れる。博多、箱崎に上陸して激しい地上戦となる。日本が初めて経験した「本土での外国軍との交戦」である。この戦いで博多の街の殆どが焼失する。しかし元軍は矢を失った等の原因で一旦撤退する。

元軍は14万の大軍を引き連れ再び現れた1281年弘安の役では、鎌倉幕府は博多湾岸に約20kmの防塁を築いて抗戦した。更には博多湾上にいた元軍を大暴風が襲い船団は海の藻屑となってしまう。これが神風伝説になるものの、二度の元寇は鎌倉幕府滅亡のきっかけともなった。

あれから700年余りが経過。科学技術の発展は目覚ましい日本にあって、その当時の船団の一部が海底より発見されたというビッグニュースが放映された。

撮影 2012年冬

